

平成31(2019)年度 学 校 評 値 【 計 画 書 報 告 書 】

加賀市立勅使小学校 校長 村戸 幸江 印

学校教育ビジョン
(みんなでつくる『あい』ある学校)
・学力向上ロードマップや学校研究を通した学力向上の取組
・豊かな心を育てる教育の推進と生徒指導の徹底
・健やかな体づくりと命を守る力の育成
・組織的な学校運営の推進
・家庭・地域との連携と郷土を愛する心の育成

評価の項目	今年度の重点目標	具体的な取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	学び合い授業の充実	友達を意識した話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようになる。	教務部	「学び合い授業スタイル」をもとに、話す・聞く力が高まりつつある。	【成果指標】友達との話し合いを通して、自分の考えを深めたり、広げたりできたか。	「学級の友達との話し合いで、自分の考えを深めたり、広げたりできた」と回答した児童が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	学期末に児童に対してアンケートを実施(7月、12月)	C	C	学び合い授業スタイルの修正。子どもたちの意見を取り入れ、一緒にスタイルを作成する。児童の授業への参画意識を高める。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	友のよさの見つけ合い・認め合い	クラスをよりよくするために、互いの意見を尊重し合う活動を行う。	生徒指導部	自己肯定感や自己有用感の高まりが見られている。	【成果指標】互いの意見のよさを生かして話し合い活動ができたか。	「学級生活をよりよくするために話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と回答した児童が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	学期末に児童に対してアンケートを実施(7月、12月)	B	B	活動後の振り返りだけではなく、話し合いをし、解決策を考えている過程を評価し、認めていく。次年度は、判断基準についても見直していく。
③キャリア教育・進路指導	主体的活動の重視	児童会やファミリーを中心に児童会活動を企画・運営する。	生徒指導部	児童が全校の前に出て発表したり、児童主体で企画・運営したりする機会が増えている。	【成果指標】児童会やファミリーが企画・運営する児童会活動に、楽しく仲良く参加できたか。	「児童会活動に、楽しく仲良く参加できた」と回答した児童・教職員が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	学期末に児童に対してアンケートを実施(7月、12月)	A	A	児童主体での活動が定着してきている。6年生や児童会が中心となって、「みんなが楽しい学校」を目標とした活動を受け継いでいく。
④保健管理	メディアコントロールの推進	親子のメディアコントロールへの意識を共有する場を設ける	健康教育部	親子間でメディアコントロールへの意識にずれがみられる。	【成果指標】親子で考えたメディアコントロールができるか。	「親子で考えたメディアコントロールができる」と回答した保護者が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末に保護者に対してアンケートを実施(7月、12月)	B	B	親のメディアコントロールの必要感を高める。学校保健委員会などを活用し、親子で考えたり意見を言い合う場とする。子ども主体の活動(目当てを決める、外遊びの推奨など)を継続する。
⑤安全管理	教師の危機回避能力の育成	教職員による模擬訓練や避難訓練後の自己のふりかえり活動を実施する。	生徒指導部	児童は避難訓練に真剣に取り組んでいる。教職員の緊急時の対応力を更に高める必要がある。	【成果指標】様々な緊急時における自らの行動の仕方を教職員は理解しているか。	「教職員による模擬訓練やふりかえりが避難訓練に役立った」と回答した教職員が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	学期末に教職員に対してアンケートを実施(7月、12月)	D	D	教職員による模擬訓練を計画・実践し、緊急時の対応力を育成する。次年度は、判断基準についても見直していく。
⑥特別支援教育	子どものよさを認める教師集団づくり	子ども一人一人のよさを理解し、全職員で認め、褒め、伸ばす指導に生かす。	生徒指導部	児童のよさを含めた児童理解を毎月実施し、全職員で児童理解に努めている。	【成果指標】教師が子どものよさを理解し、認めることができたか。	「先生があなたのよいところを分かってくれている」と回答した児童が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	学期末に児童に対してアンケートを実施(7月、12月)	A	B	「児童理解の会」を職員会議後に毎月実施し、児童の共通理解に努める。また、児童の良さを職員同士で伝え合ったり、その場で良さを認めたりする。
⑦組織運営・業務改善	ワークライフバランスに向けた業務改善の取り組み	より高い目標退校時刻を設定し、効果的・効率的な業務改善に努める。	総務部	昨年度の取組により、超過勤務時間は減少傾向にある。	【成果指標】勤務の効率化を進め、勤務時間を短縮できたか。	「目標退校時刻を守った」職員の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	勤務時間記録表をもとに毎月評価を実施	D	C	1学期68%→2学期79%となり、また超勤時間は前年度より減少している。月45時間以内を達成すべく、目標値達成に向けた意識を更に高めるとともに、業務改善を進める。
⑧研修	組織的な教師力向上	組織的、計画的に「あいあ～る研(若プロ)」を行う。	教務・研究部	昨年度より継続し、教師自身がやってよかった研修を心がけて実施している。	【成果指標】「あいあ～る研」が教師力向上に役立っていたか。	「あいあ～る研が教師力向上に役立った」と回答した教職員が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	学期末に教職員に対してアンケートを実施(7月、12月)	A	A	内容、時期、やり方の工夫を来年度も考えてあいあ～る研を実施する。研修後のふりかえりも意図的に行い、教職員のやってよかったにつなげる。
⑨保護者、地域との連携	学校支援ボランティアや地域の教育力の積極的活用	地域の教育力を活かした取り組みを推進する。	研究部	地域人材を活用することで、地域の教育力が高まっている。	【成果指標】地域人材の活用に、年間を通じて積極的に取り組めたか。	「学期に1回以上地域の人材を活用した」と回答した教職員が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	学期末に教職員に対してアンケートを実施(7月、12月)	C	A	「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、1学期から計画的に地域人材を活用できるよう教職員の意識を高める。
⑩教育環境整備	同僚性を高め、風通しがよく誰にとどても働きやすい職場づくり	各教師の提案・意見を尊重し、相互の連携を深める。	総務部	風通しよくチームで働く風土作りにより、教室もまたそのような場になりつつある。	【成果指標】同僚性を高め、誰もが働きやすい職場作りに取り組んだか。	「同僚性を高め、誰もが働きやすい職場作りに取り組んだ」と回答した教職員が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	学期末に教職員に対してアンケートを実施(7月、12月)	A	A	風通しの良い何でも話せる職員室の雰囲気が、働き方改革、危機管理、人材育成、職員のメンタルばかりでなく、子どもたちにも良い影響をもたらす基礎であることを常に心に留め、協力・協同の職場作りを進めていく。

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校が年々良くなっている。高学年のリーダーシップが育ってきた。 基本は「挨拶」である。下校時の挨拶は特によい。帰宅後の私服姿でも、進んで挨拶ができる子もいる。 地域人材の活用については、どんな人材が必要かを言ってもらえば、できる限りの対応をしたい。 山代中学校へ進学したときに、自分から努力して友達作りができる子を育ててほしい。中学の合唱コンクールを見に行く取組など、とても良い。 市P連での勅使小学校の発表はとても良かった。「親の背中を見て子は育つ」親の一生懸命な姿は子どもを動かす力となる。 集団登校の意義を再確認し、上級生としての行動がとれるようにする。
---------	---